成仏の道

## 仏さまのお慈悲



「カトレア」

ますと、

## ・教菩薩法 仏所護念

衆の終わりの所に出ています。 『平等大慧・教菩薩法・仏所護念』は欲令ですどうだいえ、『きょぼさらぼう ぶっしょ ごねん よくりす

についての教えであります。 0) お言葉です。一口に言うと「成仏」

十

見宝塔品第

人だなあ、と思いますが、それらのことは

って生まれた心の広さ、と考えたらい 知識というものです。 智慧は ^その人の持 も

思います。

智慧のある生き方は、 細かいことであま

りゴチャゴチャ心配しないことです。 先日ある所に行きました。 高速道路を行

く途中、 目的地 のインター チ エンジ **の**出でぐち

が交通事故で閉鎖中と掲示板に出ました。

を戻るとなると約束の時間に遅れてしまう。 /これは困った。一つ先まで行って下の道 た。から 「大慧」は、広大な智慧のことを言います。 平等大慧

智慧と知識は違います。この頃テレビを見き、この頃テレビを見き、またいである。 いろいろなクイズ番組があります。

それに簡単に答える人がいると
変要のいい 聞いたこともない問題の出ることもあり、

手前で降りても道がよくわからないし、混っます。

がら、 んでいたらどうしよう。といろいろ考えな 結局手前で降りました。そうしたら

その先の道路がよく整備されていて、思った。どうろしている。 たより早く着きました。このような時が困

うとしていれば、実際何とかなると思いま ません。 った。困った《と取越苦労をしても始まり 『何とかなるだろう』と、ゆうゆ

す。

ゆったり生きることの大切さを教えられま ことを心配していても仕方がありません。 一時が万事、 答えの簡単に出そうのない

平等大慧について、御前様は次のようにできどうだいぇ

述べておられます。

平等に、全部の人々を仏にせようと御恵みばらどう ぜんぷ ひとびと ほけ になる。その平等に仏にせようとする御慈 **《人々は、平等に仏性を持っている。仏は** のとびと びきどう ぶのしき も

悲を、平等大慧という | 御法話資料

突き詰めて言えば「仏に成る」というこ

とです。

ではありません。また、本堂にお祭りして 仏に成ると言っても、死んでからのこと

りません。どんな境遇にあっても変わるこ あるような金ピカの仏さまに成るのでもあ

とのない幸せを持つということです。

では、と思えることがあります。

たしかに、

はあります。 日常生活の中、 お金が入った、 幸せと感ずることは時に 地位が上がっ

なことは幸せと言えますが、それらは お いしい物が食べられたといったよう

喜びも薄れてゆくでしょう。そういう一時 はすべての人に平等に、大慈悲をお恵み下 的でない本当の幸せを持てるよう、仏さま れも一時の幸せだと思います。 時がたてば

さるのです。

うだが、この人はどうも好かれていない ″あの人は仏さまにかわ かしながらこの世の中の現実の有様は、 いがられているよ

そう言えないことがないとは言えません。

してもつまずいてばかりいる人もい 何事も順調に行っている人もいれば、

仏さまがえこひいきをしておられる どうしてそうなるのか不思議に思い ますが のでは

e V ず

決してありません。

りやすく説かれています。 法華経・薬草喩品第五にそのことがわかほのまで、そくそうのほんだい 「三草二木の譬

え」であります。

「密雲彌布して編く三千大千世界にあつうんみよる書」さんぜんだいせんせかい

覆お 13

中根・中莖・中枝・中葉・大根・大莖・大 一時に等しく澍ぐ。其の澤普く卉木・叢林の方でのと 及び諸の薬艸の小根・小莖・小枝・小葉

枝し って各受くる所あり。 ・大葉に洽う。諸樹の大小、上中下に随だいよう「含素」 しょじゅ だいよう じょうきうげ した 一雲の雨らす所、 其を

の種性に稱うて生長することを得て、華果からしています。かのことであることを得て、華果からない。

と雖も、而も諸 敷け実なる。一地の所生・一雨の所潤なりひら、 み の艸木各差別あるが如し」

が 覆お て雨が降り始めます。 1 ・ます。 その雲の中から雷光が閃き、 P

11

ろい

ろな植物の生息する大地を雨雲が

雨め は大慈悲に譬えられています。

この雲が仏さまの広大な智慧に譬えられ、

雨め ば 地上のいずれ の所にも平等に降り注

たくさん雨を上げよう、こちらは草ばかり ここに生えてい る木は大きい から

> だから少しでいいだろうということは よって、吸い上げる水の量は違います。 ません。 しかし草・木それぞれ の 持も つ力に あ ŋ

ける力に差があるのです。それは、徳を受 人間も同じように、仏さまのお慈悲を受になげる。まな

ける器の大小と考えたらいいと思います。 せっかく仏さまが徳を下さっても、受け

取る器が小さいと、少ししか受けられませ ん。大きな丼と小さなおちょこでは自ずか

ら、入る量が違います。愚痴ばかり言って

分、ヒビが入ったり穴が開いていて漏れて きな器があっても怒ってばかりい いる人は器もきっと小さいでしょうし、大いる人は器もきっと小さいでしょうし、大き るとその

どういう人がたくさん徳を受けられるか

を軸に、少しでも人に喜んで頂こうと努力 と言えば、いつも、ありがたい、という心

している人です。

のは、そういうことをしていると将来必ず、 腹を立て、愚痴を言うことが戒められるは、

困った事態を招く原因になるからです。こ の世界は因縁の世界であります。罪障はす

なことは慎まなければなりません。 べて自分持ちです。成仏の妨げとなるよう

な器を用意して、仏さまのお徳をいっぱい 穴やヒビ割れのない、しっかりした大き \*\*\*

いと思います。

受けられるよう、感謝の心で生きてゆきた。

三草二木の譬えは、法華経が「一乗の教

え」であることを示しています。

を聞くことが主の人、教えを聞いて喜びを 世の中にはいろいろな人がいます。教え

得、信仰を楽しんでいる人、そして、少しない。 でも相手の人を力づけてゆこうと努力して

ずれの人をもすべて一様に、利益が受けら いる人といろいろですが、仏さまはそのい

徳を下さるのですから、その徳を少しでも れるよう法華経を説かれたのです。 仏さまがそのようにお考えになられ、お

— 11 —

たくさん受け止めたいものです。そのため

には、 りして罪障を作らないように、 **貧ったり腹を立てたり愚痴を言った** 広い心、

豊かな感謝の心を持ってゆくことが大切でした。

す。 れて「現世安穏・後生善処」ということに
げんぜ あんのん ごしょぜんしょ そうすると仏さまのお徳が丸々受けら

なるのです。

が、 私共の今いるこの世界は、安穏どころかをととものよ ったこと・苦しいことの方が多いのです 法華経を聞き、広い心で徳を積んでゆ

来世は くなら必ず、心は安穏になります。そして |極楽に生まれることができます。 ゴ

キブリや蚊に生まれ変わって人に嫌われる

ようなことはありません。

薬草喩品の最後はやくそうゆほん さいご 「汝等所行

是菩薩道」

はみな菩薩道である、 で結ばれております。 私共のしていること

ということです。

行」と言えます。 いと願っていますが、 誰もが日々楽しく生きただれのひだれのい 毎日が修行であったまいにち しゅぎき

ら楽なことは望めません。思うようになら

す。それを乗り越えてゆくのが、仏に成る ないことが一つ二つあるのはあたりまえで

えるなら、 ための菩薩道であります。 技を磨くためのトレーニングと スポ 1 ツにたと

言えます。一流と言われるスポーツ選手はいいます。

— 12 —

け、喜ばせるために生きるということです。

Ł,

のできることで周りの人、縁ある人を力づいた。

皆さん、 てみえます。立場は違いますが、仏に成る 想像を絶するトレーニングを重ね

ためには頑張らなければいけません。

教菩薩法

法」と言うのですが、 な凡夫には無縁の法だ、と思ってはいけま はんない。 まき 菩薩を仏にするための教えを、 ″それなら私のよう 「教菩薩

る使命がある、とおっしゃいました。 せん。杉山先生はすぎゃませんせい 『本化の菩薩』 であり、 菩薩行を実行す 自じ 分 がん

は必ず、こちらに戻ります。それと同じよ こちらに引き寄せようとすれば、一度は来 ます。逆に、水を向こうに押しやれば今度 ます。しかし、すぐ向こうに行ってしまい タライの水にたとえてみます。中の水を

うに菩薩行は、まず相手を先に喜ばせるこ それがすべて自分の喜びになる、とい

私共どうしても、 自分を先に考えます。

幸せを考えてゆかなければなりません。

とは思いますが、それ以上に「菩薩」

であ

るのですから、自分の幸せより先に相手の

う考え方です。間接的と言いましょうか、

あります。

仏所護念

仏さまは常に、すべての人が本当の幸せい。

を持てるよう心に念じ、お護り下さってい

本当の幸せとは、何でも思うようになるほどう

ことではありません。どんな時にも、あり

がたいな、という心を持ち続けることです。

仏さまの特徴は、いつも幸せな人、です。

もありがたい、という心をいつも持ち続け 『何があってもありがたい。 『何もなくて

ることができたら、この私も仏さまと同じ

と言えます。そうなれるよう精進を重ねる

ことが、法華経を信仰するということであ

ります。